

# JA愛知東が取り組む自己改革

# 「なくてはならないJA」目指して地域貢献

## JA愛知東の 主な地域貢献活動

地域交流や学童の健全育成を目的とした各種スポーツ大会（JA杯）のほか、アグリラリー（歩け歩け大会）やノルディックウォーキング、ロコモ体操など健康にまつわるイベントを数多く開催しています。また、集団人間ドックの実施・助成も行っています。



4月28日・29日  
JA愛知東組合長杯  
少年軟式野球大会

こども農学校や出前講座（大豆教室、バケツ稲）では、次代を担う子どもたちに育てる楽しさ、食べることの大切さを伝えています。また、地元食材の美味しさを再発見してもらおうと、クッキングフェスタや料理教室を開催しています。



4月22日  
第1回こども農学校（ニンニクの種まき）

5月16日新城市、5月28日東栄町  
6月1日設楽町、6月4日豊根村  
管内市町村へ災害時に自転車を寄贈



地域住民が安心・安全に暮らせるよう、災害時に役立つ備品の寄贈や物資の備蓄を行っています。拠点となる管内のJA事業所へはAEDを設置し、管内の保育園や小学校へ自転車シミュレーターやDVDを貸し出すなど、交通安全教室の支援も行っています。

5月13日  
フレンドシップ東栄ゴミ拾い



植樹などの里山保全や管内のゴミ拾い、団体献血やエコキャップ運動など、JAで働く職員自らがさまざまな地域活動に関わっています。消防団活動への積極的参加、地域高齢者の見守り、職場体験の受け入れなどは関係機関から協力事業所としても認定されています。



営農、生活、信用・共済などの総合事業を展開するJA愛知東では、地域の農業や生活を守り、よりよい社会を築くことを目的に「食」や「農」だけでなく、「健康」や「暮らし」を支えるさまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。

しかし、政府が掲げる『農協改革』では、「JAは農業だけに専念すべき」「地域貢献は二の次」「准組合員は正組合員のサービス利用の阻害となる」と言わんばかりに、総合事業の解体、や、准組合員の利用規制、などが押し進められています。

暮らしの中からJAの総合事業がなくなってしまうら…  
JAの利用を農家に限定してしまうら…  
そうならば、暮らしの困ったを地域が一つになって解決するJA本来の役割が果たせなくなってしまいます。

JAが実践する『創造的自己改革』には、組合員みなさんからの「地域にはJAが必要だ」という声が必要です。

JA愛知東では、地域の方々の協力を得て、地域農業を盛り上げます。

「自己改革」  
取り組み中!

増やそう!  
農業応援団

増やそう!  
話し合い

増やそう!  
農家所得

